

## 7 看護医療系について

### (1) 看護師編

看護師になるための養成施設には、大学（4年）・短大（3年）・専門学校（3年または4年）がある。それぞれに特色があるので、その違いをよく理解した上で志望校を選ぶのが望ましい。

看護系学校の受験者数は、不況、資格志向と高齢化社会による医療スタッフのニーズの高まりから増加している。

- ① 大学……○修業年限は4年で、看護師養成の頂点であり、研究の他、養護教諭や看護界のリーダー等の養成が主な目的である。また保健師・助産師の課程を併設しているところも多い。  
学校数は近年急増してきている。

○国公立大学では大学入学共通テストと2次試験があり、かなりの難関である。私立大学もかなり難しい。

- ② 短期大学…○短期大学（3年）は文部科学省の管轄で、国公立・私立がある。  
学校数は減っており、少ない。

- ② 専門学校…○専門学校（3年または4年）は厚生労働省の管轄で、設置形態は多種多様。大学の医学部附属や病院附属、日本赤十字、公立、私立などがある。大学への編入の道が開かれている。4年制の修了者には高度専門士の称号が付与される場合もある。

○現場での即戦力となる実務看護師を養成する目的で作られており、実習の時間に全授業の3分の1を充てている。

### (2) 医療系編

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士になるには、大学（4年）・短大（3年）・専門学校（3年または4年）の勉強で国家試験受験資格を取得し、国家試験に合格することが必要。看護師同様それぞれに特色があるので、自分に一番あった養成施設を選ぶことが望ましい。毎年新設・増設が続いているが、依然として理学・作業療法士・言語聴覚士の人気は高く、難化傾向が続いている。

また臨床検査技師や臨床工学技士等、医療系には他にも様々な職種があり、新しい医療機器や技術に対応した資格を持つ人材が求められている。それぞれ国家試験等に合格することが必要になる。内容をよく調べた上で、学校を選ぶこと。

医療系の国公立はかなり難関であり、相当の学力が必要。専門学校や大学も数が少ない分難しい。また医療系に携わる人物としての適性を判断するため、面接・小論文は重視される傾向にある。早い時期から目的意識をもって準備し、模擬テストを受けるなどして受験校を決めるとよい。

### (3) 入試概況

①看護医療の高度化・複雑化に伴い、科学的な知識を持ち、状況に応じて適切な決断ができる能力、他者への理解・ケアをしっかりとできる能力を持つ人物が望まれている。不況の影響で看護医療系学校への社会人や大卒者などの受験が増えている。それに伴い、看護医療系学校も年齢層が幅広くなり、平均年齢が上昇している。

②入試問題は小論文・一般選抜を含め、思考力を問う問題が多くなってきている。

面接については、よく練習した(暗記した)ものより、本人がどれだけ自分の考えを述べるか、自分らしさを出すかが重視されるようになってきた。

③学校推薦型選抜は「小論文」「面接」「適性検査」がほとんどであり、評定平均値・面接が重用視される。一般選抜は「国」「英」「数」「理」の4教科が主流であり、試験の結果が重要視される。どちらにせよ欠席が多い(3年間に10日は多い)のは不利である。

### (4) 入試対策

#### ①受験科目の確認

○学科試験の科目は国語、英語、数学、理科の4教科型が主流であるが、実際には学校によって差があるので、学習を進める上で、入試科目を確認しておくこと。

○国語、英語はほとんどの学校で共通であるが、理科については、生物・化学が選択か必須か、数学についても、数学Ⅰ・AだけなのかⅡ・Bまで含むのかなどについて確認しておくこと。

#### ②基礎的学力の充実

○一般に高度な応用力を必要とする問題は少なく、基本的な問題が幅広く出題されるので教科書レベルの基礎力をしっかり身につけること。基本事項理解用と問題演習用を各1冊ずつ用意したら、徹底的に覚えて、繰り返し問題をやること。

○英語は入学後も引き続き重要な教科となるため、受験勉強の段階からしっかり力をつけておきたい。

数学は「できるか」「できないか」で明らかに大きな差が出るので、不得意科目にならないようにしておきたい。

○過去問を何度もやってみることは、実力錬成につながり効果的な学習である。

○模擬テストを必ず受けること。看護医療系に特化した模擬テストがあるので進路部からの案内を見落とさないように。

#### ③最後まであきらめない

○医療系学校は多種多様で難易度にも差があり、合格が難しいところもあるが、最終目標があくまでも看護師や医療従事者になることと考えると、進路決定に関しては特定の学校にこだわらず、柔軟な考え方で臨む必要がある。

○大学受験と同様、目標校、チャレンジ校、安全校という受験計画を検討するこ

と。

④看護体験・医療職体験・学校公開に積極的に参加すること。

○学校によっては問題の傾向対策に関しての情報も得られる。

⑤面接・集団討論・小論文の準備も

○『相手の言う事が理解できる、自分の言葉で的確に表現できる』ことが要求されるので志望動機や志望理由などについては、具体的かつ明確に答えられるよう練習すること。

○小論文については特に国語力が要求されるので、小論文を書く練習をよくすること。目安として2年生では年に2, 3本、3年生では月に1, 2本書く。

○本や新聞（特に、保健、衛生、医療分野）をよく読み、自分の考えや意見をまとめたり、書いたり、発表するのも大切である。特に、それらの分野において話題となっている記事に目を通し、理解を深めておくこと。

⑥各種大学・学校に入学してから卒業並びに資格取得までに要する経費を調べる。

○入学金・授業料以外にも施設費、実習費、保険代、教科書代、実習衣代など必要経費が学校により大きく異なる。年間200万円近い学費が必要になることもあるので、よく調べて保護者とも相談をすること。

○奨学金制度の種類や数も多く、看護系では卒業後の就職条件によっては返済を免除される制度などを設けている専門学校もある。他の方面の進学に比べると、経済面での支援制度が充実していると言える。経済事情も踏まえて、将来の返済計画を十分に検討した上での活用を勧める。